

活動報告書

報告者氏名: 米沢谷 将

所属: さいたま市立さくら草特別支援学校

記録日: 2015年2月22日

【対象児の情報】

- ・学年 小学校4年生 男子(通常の学級)
- ・障害名 なし(医師から ADHD の可能性との所見あり)
- ・障害と困難の内容
 - ・視写した文字の形や大きさが整いにくく、特に漢字は視写の間違いもみられる
 - ・単語などの短いことばでの表現が多く、思いや考えが伝わりにくい
 - ・注意が途切れがちなことに加え、書くことを中心に学習意欲が低下しているため、進んで学習に取り組むことが難しい

【活動目的】

- ・当初のねらい
 - ・自分に合ったツールを活用して経験したことを書くことができる
 - ・「できた」という経験を積み重ねて学習意欲を向上させる
- ・実施期間 平成26年6月～平成27年2月(1回50分程度の指導を合計9回)
- ・実施者 米沢谷 将、齋藤 保将、熊谷 隆彦
- ・実施者と対象児の関係 特別支援学校のセンター的機能による対象児と保護者の教育相談担当

【活動内容と対象児の変化】

- ・対象児の事前の状況
 - 対象児は通常の学級に在籍している。書くことへの苦手意識が強く、学習意欲が低下している状態であった。書く活動には自発的に取り組むことが少なかった。また、学習に取り組み始めてもなかなか持続せず、課題を完成させることが難しいことも多かった。このような状態に対象児の保護者が改善の意向を示したため、センター的機能による対象児との定期的な教育相談を開始した。
 - 自分のしたことや思ったことを伝える場面では、語彙が少なく、単語または一文程度の言葉足らずな表現が多く、詳しい内容が相手に伝わりにくかった。また、自分の気持ちを表現する場面では、「よかった」「ふつう」などの限定的な表現であった。
 - 言葉を想起したり、頭の中で文を構成したりすることは苦手であったが、提示された複数の文を正しい順番に並べ替えることはできていた。
 - 漢字を書くことが苦手でも視写でも細部の誤りがみられたが、漢字の読みはほぼできていた。
- ・活動の具体的内容
 - 実施した時間と内容について
教育相談は、放課後に1回あたり50分程度行った(夏季休業中にも1回実施)。在籍校への巡回相談と来校型の相談を組み合わせて行った。相談の基本的な流れは、「①今の気持ちを表現する、②見通しをもつ、③課題の目標時間を決める、④プリント課題に取り組む、⑤振り返る、⑥感想を書く」であった。さらに、相談回数が限られていたため、宿題の一言日記に取り組むことで、日常的に書いて伝え合う機会をつくった。

また、在籍校には各学期1回又は2回の学校コンサルテーションを行った。学校コンサルテーションでは、対象児の担任と学校での様子や教育相談時の様子についての情報共有、対象児の実態の確認、支援方法の検討などを行った。支援方法の検討では、例えば、授業場面で重要な部分のみ書き写すように書字量を軽減する方法、それまで黒板に書かれた連絡をノートに書き写していたものを、連絡の書かれた紙を黒板に貼っておき書き写すのが難しい場合には紙を手元に置いて書き写す方法などがあった。担任は、拡大投影機を使ってテレビに拡大して映し出すような取組も実践していた。

○使用したアプリの目的と使用方法について

①こころく～心の録音～⇒「①今の気持ちを表現する」「⑥感想を書く」で使用(2学期から)

ねらい:自分の気持ちに気付き、言葉で表現する力を高める。

方法:「今の気持ちはどうですか?」「～したときの気持ちはどうでしたか?」という質問に

対して、自分の気持ちを選択して言葉で伝えるようにした。また、例えば、「楽しい」を選んだ場合には、画面を操作しながら「とても楽しいではなくて楽しいですか?」「少し楽しいではなくて楽しいですか?」などと質問して、選択した気もちの程度も表現するようにした。

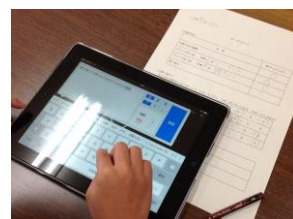


②ロイロノート⇒相談の流れ「⑥感想を書く」で使用(2学期から)

ねらい:頭の中だけで文章構成していくことの困難さを補う。

文中に漢字を活用できる経験を増やす。

方法:まず、カード1枚に1つの言葉を書き、材料を集める作業を行った。言葉が思い浮かばないときには、例えば5W1Hの観点をもとに考えるようにした。次に、集めた言葉を順番につないでいき、文を構成した。最後に、拡大表示したカードを見ながら感想用紙に筆記で記入した。マインドマップの活用も検討したが、つなぎ方や広げ方を理解し作文に活用することは難しいと思われた。そのため、付箋紙のように必要なカードだけをつないで文章構成できるロイロノートを活用した。



③メッセージ⇒宿題の一言日記で使用(6月から2月まで)

ねらい:書いて表現する力を高める。

書いて伝えることの楽しさを味わう。

方法:教育相談時に文字の入力・送信の仕方、カメラの活用の仕方について、実際に操作しながら確認した。また、機器を取り扱う際の約束事を確認した。その上で、iPadを1台持ち帰り、一日の出来事やそれに対する自分の思いを書き、実施者に送信する取組を行った。通信機能を活用することで、相談場面以外の日常的なコミュニケーションの機会を保障した。



・対象児の事後の変化

- ①適切な気持ちを選べるようになってきた。また、「少し」「とても」を使い、気持ちの程度まで表現できるようになってきた。
- ②文中の言葉が増え、詳しい表現ができるようになってきた。また、言葉で伝えきれない内容は写真を活用するようになり、表現することへの意欲が向上してきた。
- ③手書きとは違い、iPadを使えば作文で漢字を活用できること、大きく表示した文字を書き写せば間違いにくいことを理解してきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ①出来事とそれに対する気持ちを書くなど、以前より詳しく文章で表現できるようになってきた。
- ②自分の取組をポジティブに評価することが多くなってきた。
- ③手書きへの苦手意識に変化はないが、iPad を活用すれば書けそうだという気持ちが出てきた。

・エビデンス(具体的数値など)

- ①出来事とそれに対する気持ちを書くなど、以前より詳しく文章で表現できるようになってきた。

グラフに「一言日記に使われていた文字数・文節数・漢字数の平均値による比較」を示した。文字数、文節数、漢字の数の全ての項目において、1学期よりも3学期の方が増えた。特に、「ころく～心の録音～」と「ロイロノート」を活用し始めた2学期以降の文字数の増加が顕著であった。苦手とする部分を補いながら、気持ちを言葉で表現すること、文を構成することを繰り返し行ったことが有効だった可能性が考えられる。また、書いて表現する活動でうまくできた経験を積み重ねてきたことにより、手書きへの抵抗感への変化はあまりみられないものの、iPad を利用して書くことへの意欲は少しずつ向上してきた可能性が考えられる。

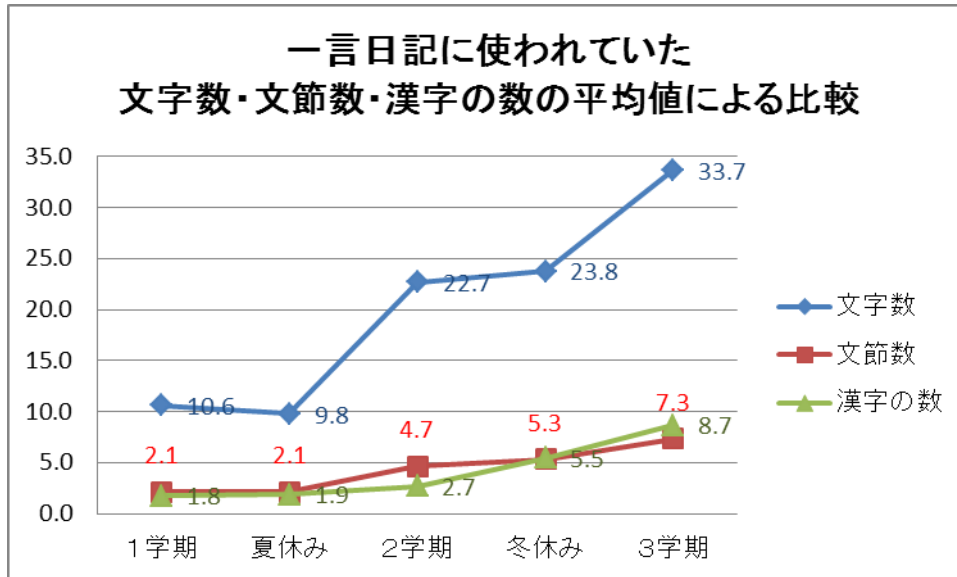


表1に対象児の書いた一言日記の例を示した。1学期から2学期の途中までは、表現が短く、詳しい内容が伝わりにくかった。一方、2学期の途中から3学期にかけて語彙が増え、経験したことや感じたことが詳しく書けるようになり、読み手に伝わる文章が多くなった。

表1 対象児の書いた一言日記の例

1学期	夏休み～2学期	冬休み～3学期
<p>つまらなかったです。</p> <p>僕は今日楽しかったです</p> <p>またやりたいです</p>	<p>お父さんの誕生日でした。</p> <p>公園にいきました。</p> <p>学校でわり算のひっさんのテストで難しい問題がいっぱいあったけど100点とれそう。</p>	<p>夜初日の出を見に茨城に行きました。家族全員で行きました。寒かったけど初日の出はきれいなぜっけいでした。</p> <p>こんばんは</p> <p>今日は100点とれそうな算数のテストをしました。明日にテストを配られるので楽しみです。</p>

②自分の取組をポジティブに評価することが多くなってきた。

表1に示したように、2学期途中から3学期には、「100点とれそう」などと自分の取り組んだことに自信をもった表現が増えてきた。また、表2に教育相談時の振り返り場面における自己評価の変容に示したように、初めはできなかったことが少しでもあると最も低い評価をしていたが、同じ条件においてできた部分も含めてポジティブな評価をするようになってきた。このような自己肯定感が向上した要因として、自分の気持ちを少しずつ言語化できるようになってきたことで心理的な安定が図られてきたこと、これまで苦手だと感じていた書く活動において達成感を積み重ねてきたこと、教育相談時に「～はおしかったけれど、～はできていたね。」「最後まで取り組んだことがすばらしい。」などの肯定的な部分に着目できるように言葉かけたことなどの理由が考えられる。

表2 教育相談時の振り返り場面における自己評価の変容

前	後																																				
<p><学習予定></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>終わったしるし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習予定の確認</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>プリント①～③ 目標: 5分 時間内にできなかった</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>プリント④～⑥ 目標: 7分 時間内にできた</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>振り返り</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p><振り返り> あてはまる数字に○をしましょう。(1点…もう少し 2点…だいたいできた 3点…よくできた)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>手順を見てやることを確認できましたか?</td> <td>1 . 2 . 3</td> </tr> <tr> <td>決められた時間内にやりとげることができましたか?</td> <td>1 . 2 . 3</td> </tr> <tr> <td>終わったら一つずつシートにチェックできましたか?</td> <td>1 . 2 . 3</td> </tr> <tr> <td>最後まで取り組むことができましたか?</td> <td>1 . 2 . 3</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価は1点</p>	内 容	終わったしるし	学習予定の確認	○	プリント①～③ 目標: 5分 時間内にできなかった	○	プリント④～⑥ 目標: 7分 時間内にできた	○	振り返り	○	手順を見てやることを確認できましたか?	1 . 2 . 3	決められた時間内にやりとげることができましたか?	1 . 2 . 3	終わったら一つずつシートにチェックできましたか?	1 . 2 . 3	最後まで取り組むことができましたか?	1 . 2 . 3	<p><学習予定></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>終わったしるし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習予定の確認</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>プリント①～③ 目標: 5分 7分53秒 時間内にできなかった</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>プリント④～⑥ 目標: 6分 3分49秒 時間内にできた</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>振り返り</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p><振り返り> あてはまる数字に○をしましょう。(1点…もう少し 2点…だいたいできた 3点…よくできた)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>手順を見てやることを確認できましたか?</td> <td>1 . 2 . 3</td> </tr> <tr> <td>決められた時間内にやりとげることができましたか?</td> <td>1 . 2 . 3</td> </tr> <tr> <td>終わったら一つずつシートにチェックできましたか?</td> <td>1 . 2 . 3</td> </tr> <tr> <td>最後まで取り組むことができましたか?</td> <td>1 . 2 . 3</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価は2点</p>	内 容	終わったしるし	学習予定の確認	○	プリント①～③ 目標: 5分 7分53秒 時間内にできなかった	○	プリント④～⑥ 目標: 6分 3分49秒 時間内にできた	○	振り返り	○	手順を見てやることを確認できましたか?	1 . 2 . 3	決められた時間内にやりとげることができましたか?	1 . 2 . 3	終わったら一つずつシートにチェックできましたか?	1 . 2 . 3	最後まで取り組むことができましたか?	1 . 2 . 3
内 容	終わったしるし																																				
学習予定の確認	○																																				
プリント①～③ 目標: 5分 時間内にできなかった	○																																				
プリント④～⑥ 目標: 7分 時間内にできた	○																																				
振り返り	○																																				
手順を見てやることを確認できましたか?	1 . 2 . 3																																				
決められた時間内にやりとげることができましたか?	1 . 2 . 3																																				
終わったら一つずつシートにチェックできましたか?	1 . 2 . 3																																				
最後まで取り組むことができましたか?	1 . 2 . 3																																				
内 容	終わったしるし																																				
学習予定の確認	○																																				
プリント①～③ 目標: 5分 7分53秒 時間内にできなかった	○																																				
プリント④～⑥ 目標: 6分 3分49秒 時間内にできた	○																																				
振り返り	○																																				
手順を見てやることを確認できましたか?	1 . 2 . 3																																				
決められた時間内にやりとげることができましたか?	1 . 2 . 3																																				
終わったら一つずつシートにチェックできましたか?	1 . 2 . 3																																				
最後まで取り組むことができましたか?	1 . 2 . 3																																				

③手書きへの苦手意識に変化はないが、iPad を活用すれば書けそうだという気持ちが出てきた。

表3 対象児の発言・学校・家庭での様子

対象児の発言	<ul style="list-style-type: none"> 「手で書くのは面倒だし、うまくできないけど、iPad があればうまく書けそうな気がしてきた。」 「(作文を書いたときに)ことばが増えてきた気がする。」
学校での様子 (担任から)	<ul style="list-style-type: none"> 在籍校でのノートや連絡帳を書く場面では、声をかけてもなかなか取り組まないことがまだある。 宿題をやらなければいけないという気持ちが高まってきたため、やっていない宿題について自分から先生に報告・相談しに行ったり、自ら休み時間に取り組んだりするようになった。 これまで音読はスムーズに読めていたが、難しい熟語が増えてきたことで漢字がうまく読めずに意味理解ができない場合がでてきた。
家庭での様子 (保護者から)	<ul style="list-style-type: none"> 一言日記に毎日取り組むようになった。事前に送信しなくてもよいと決めていた日にも進んで取り組む様子がみられた。 漢字ドリルの取組にはあまり変化はみられないが、計算ドリルや音読は声をかけると取り組む頻度が増えてきた。漢字練習は、いくつかの新出漢字を練習するのに比べ、ドリルにある20個の文を書いて練習するような場合に取組の進捗が悪くなる可能性が高く、なかなか捗らない状況である。

表3に対象児の発言・学校・家庭での様子を示した。学校で自らやっていない宿題に取り組むようになってきたこと、家庭で声をかけると宿題に取り組む頻度が増えてきたことから、以前に比べ学習に向かう気持ちが行動に現れてきている。また、対象児から「iPad を使えばうまく書けそうな気がしてきた。」という発言があり、自分にとっての有効な手段を理解し始めていると考えられる。一方、「手で書くのは面倒だしうまくできないけど・・・」という発言、書くことを中心になかなか思

うように取り組むことができない状況にあることは、対象児の困難さにより書字への負担感が大きいことの現れである可能性が考えられる。

・その他エピソード(画像などを含めて)

<教育相談・家庭学習の取組について>

今後も定期的な教育相談を継続していく方針である。対象児が教室で力を発揮するためにも、これまで以上に在籍校との連携を充実させ、教室で使用している教材やテストなどを参考として教育相談時の課題を設定していきたい。

また、家庭学習では、語彙力を高めたり、苦手な漢字学習でできた経験を増やしたりするために、「小学生国語：言葉と文」「小4漢字ドリル 楽しく学べる漢字シリーズ」「はんたい GO!」をiPadに入れ、取り組み始めたばかりである。取組状況に関する変容や効果は、今後検討を進める予定である。また、これまでのメッセージを活用した取組を受けて、例えば「Phonto 写真文字入れ」を活用して、送信した画像にコメントを入力するなど、これまで扱ってこなかったテーマ設定でも書いて表現することの喜びを味わえるような学習を検討していきたい。



<在籍校での取組について>

日常的な学習の場である学級の中で達成感を味わう経験を積み重ねていくためにも、教育相談時の直接的な支援だけでなく、学校コンサルテーションで在籍校に対して有効な支援方法を提案していく必要があると考える。

在籍校の担任や対象児本人を交えて、苦手とするノートテイクあるいは宿題の方法、内容、量に関する約束を見直し、改めて目標設定を行っていききたい。支援方法の具体例としては、カメラ機能を活用して板書又は連絡事項を写真で管理する、漢字ドリルの文を書く練習で一文を書くのではなく文中の新出漢字のみを書くようにするなどが考えられる。また、作文の学習では、これまで教育相談で取り組んできた自分の気持ちを選択する、カードを並べ替えて文章を構成する方法を教室場面で活用することが可能だと思われる。教育相談時のようにiPadを活用することも考えられるし、機器を使わない場合には、気持ちの選択肢をカードにしておく、付箋や短冊で文章構成するなどの方法も考えられる。対象児にとっての機器活用の有効性を確認しながらも、在籍校との協議で有効かつ実践可能な支援方法を検討していきたい。さらに、機器活用の困難さが対象児自身の抵抗感や周囲の子どもの理解にある場合が考えられる。その際には、教育相談時に機器を活用するとうまくできるという経験を積み重ねたり、必要に応じて学級への説明を行ったりするなどの手立てが必要だと思われる。このような点についても、対象児の思いを大切にしながら在籍校と検討していきたい。

さらに、新たな課題として、これまでスムーズにできていた音読で、漢字の熟語が増えてきたことにより正しく読めず理解できない場面がみられるようになってきている。授業場面で理解、思考、表現に専念できるようにするためにも、例えば、予習で「ボイスオブデイズ」を活用して文中の漢字にルビをふる、iPadで語彙の意味を調べるなどの家庭と連携した取組も検討したい。

